

現職の壁厚し！〈11月24日告示勝山市長選〉

出馬に市民困惑

迎え撃つ！



竹内和順氏

西山理恵氏

オール勝山体制で臨む
身の程知らずの

信頼と実績の水上稟



市民とともに 未来に向けて

県立恐竜博物館はリニューアル後初めての特別展「パツドランドの恐竜たち」が大成功を収め、10月7日時点で入場者数が26万4747人過去最高の入場者数を記録。8月のお盆期間の7日間で昨年同期間と比較して20%以上の増加となった。道の駅「恐竜渓谷かつやま」も同7日間で5万386人の来場があり、昨年と比較して5割以上も増加。さらに、白山平泉寺歴史探遊館「まほろば」、はたや記念館ゆめおしれ勝山、勝山城博物館など市内の観光施設はいずれも入込みが増加しており、特に外国人観光客に人気の越前大仏清大寺にあっては前年比2.5倍以上の伸びで、市にとって棚からぼた餅の観光地となっている。

こうした観光施設のにぎわ
水上実喜夫氏

いに伴った宿泊施設の誘致など勝山商工会議所、DMO法人勝山市観光まちづくり株式会社と連携し、観光の産業化に力を入れている。

課題の一つである少子化対策は「安心して結婚・出産・子育てできるまち勝山」を目指し各般から施策を実施。

子育て支援については全国トップクラスの施策である不育症・不妊治療の完全無償化、無償での放課後児童対策の実施、18歳までの医療費の無償化など社会情勢の変化に合わせて、順次制度の拡充を図ってきた。9月からは県内自治体では初となる第1子からの所得制限を外した保育料の完全無償化をスタートする。

また、国のこども未来戦略に基づき10月分から児童手当の所得制限を撤廃し、支給対象者を高校生年代までに拡充。11月からは児童扶養手当の所得制限の限度額を引き上げ、対象者の拡大を図る。さらに、

昨年からの準備を進めている0歳から18歳までの切れ目ない経済的支援、さらには大学生等の給付型奨学金の制度設計についても協議を進めていく。

一方、3中学校を統合し勝山高校敷地内に併設する「勝山中学校」は、令和9年4月の開校を目指す。再編にこぎ着けたのも市民の声に耳を傾け、懇切丁寧に説明を重ねた水上氏の誠実さの賜物である。また令和7年4月に県立大学恐竜学部の勝山キャンパスが開設される。地質学科の入学定員30名として学部設置が正式認可され、恐竜のまちとしてさらなる注目が集まる。

9月1日、勝山市は市制施行70周年を迎えた。節目を迎え、水上氏は市民主役の新しい「勝山の価値」を市民みんなで創り、未来に残していくためのスローガン「さあ！勝山しか勝たん山」を掲げた。勝山市が持っている誇るべき価値を未来につなげていく